



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会

# 三軒茶屋 教会通り

第17号 2003年4月発行

〒154-0024  
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: (03)3418-4933  
編集/発行: 広報部

## 交わりの一致と豊かさ



牧師 陣内厚生

私が両手をひろげても、  
お空はちっとも飛べないが、  
飛べる小鳥は私のように、  
地面(ぢべた)を速くは走れない。  
私からだをゆすっても、  
きれいな音はでないけれど、  
あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ。  
鈴と、小鳥と、それから私、  
みんなちがって、みんないい。

ことし生誕百年を迎えた薄倅の詩人、金子みすず(一九〇三—三〇)の「私と小鳥と鈴と」という題の詩です。今から二十年前、私は請われ山口県長門市の長門教会を兼牧していた頃、この町の不世出の童謡詩人が掘り起こされ、世に紹介されました。それが金子みすずでした。いずれの詩も情感のみずみずしさ、斬新な複層的視点に圧倒されるものがあり注目されたのを覚えています。この詩は、昭和初期の国家統制の進む時代に作られたものですが、なんと、「みんなちがって、みんないい」という解りやすい大胆なフレー

ズが人間讃歌をうたいあげているではありませんか。

さて、私たちの教会に目を向けてみましょう。教会では、使徒信条で言う「聖徒の交わり」が一つのテーマとして告白されます。すなわち、信徒たる者は、キリストの十字架と復活の出来事に出会い、聖霊を受けることにより今まで経験し得なかつた新しい交わりを形成するに至りました。これによって信徒は神との交わりを正しい形で保証され、他者との交わりを正しく保つことのできる者とされたのです。「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた」(使徒言行録四の三二) という姿に原初の交わりを垣間見ます。

これはダイナミックに発展していきます。コリント一二の四以下にある「キリストの体に属する多くの部分」、ローマの信徒への手紙一二の六以下の「異なった賜物」に見られるように、それは教会を豊かな内容に満たしていくものです。信仰を

与えられるということは、恵みを与えられていることなのです。恵みが与えられていることは、自分たちお互いは顔かたちが違うようにそれぞれ異なった賜物が与えられていることを認め合うことなのです。私たちの中にある狭い排他性や他者への猜疑心は起こらうはずがありません。

最近の教界の傾向として、教会は乳児から高齢者までを「神の家族」として存在すると把握するようになりました。老若男女、社会的弱者も強者も一つの群れ、つまり家族的なつながりの中にあることを意識し始めたのです。共生の時代と言われる今日、教会にはさまざまな世代、異なった背景をもった人びとがおり、そこに身をおくことによって共に生きることを体現することができます。なぜなら、キリストが先立ってその生き方を示されたからです。

教会の交わりは、助け、分かち合い、共に喜びに与ることの基本に立っています。「みんなちがって、みんないい」、そんな優しさのあふれる教会を形成してみませんか。